

財団だより

第157号

2019.3

多摩川



マルタウグイ
マルタウグイ・産卵



カワウ

マルタウグイと野鳥

写真・文 大野 章
(川崎市多摩区在住)

マルタウグイはサケ同様、生まれた川に産卵のため戻ってくる。多摩川中流域では、桜の花が咲く頃に遡上してくる。浅瀬で40～50cmもある赤い魚体が、盛大な水しぶきを上げ産卵する様は、迫力満点。釣り人と共に野鳥達も、このマルタウグイ到来を待ちわびている。

泳いでいるマルタウグイを狙うのはカワウで、丸呑みを試みるが大き過ぎて呑み込めず、途中放棄する場合が多い。又、産卵後の弱ったものは、アオサギ、トビ、カモメ類、カラス等に狙われる。しかし、いずれの場合も1匹を1羽が占有することは難しく、ほとんどの場合奪い合いが生じる。

その場面は、鳥種ごとの性格・行動様式が現れ、見ていて飽きることがない。



アオサギ

目次

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ■ 多摩川散歩 2 | ■ とうきゅう環境財団 一年のうごき... 20 |
| ■ 多摩川に学ぶ 3 | ■ ヘタレサイクリスト 多摩川を下る! ... 32 |
| ■ 連載2 アミガサ事件の歴史的背景... 4 | ■ 読者コーナー 34 |
| ■ 多摩川改修100年プロジェクト 6 | ■ 事務局より 35 |
| ■ インフォメ/多摩川 8 | |

多摩川散歩

多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂真悟

多摩川源流ジャーニー開催

多摩川源流ジャーニーとは、「多摩川源流域ではバイクでツーリングを楽しむ方が多い一方で、運転マナーや交通事故の発生が問題となっています。そこでバイクの安全運転啓蒙と多摩川源流域の活性化を目的としたスタンプリアーを実施」するものです。

丹波山村・奥多摩町・小菅村の3つの地域が連携し、安全で快適なツーリングを楽しみ、バイカーをはじめとした観光客の増加、マナー向上を目指します。

【参加方法】

多摩川源流ジャーニー特設HPから参加申込みして頂きますと、セーフティライダーの証として「赤いスカーフ」が届きます。その赤いスカーフを持参して、3つの地域にあるチェックポイントや協力店舗を巡り鹿革ストラップを集めながら多摩川源流のツーリングを楽しんでください。詳細については、特設HPの「参加ルール」をご参照ください。

開催期間：2019年3月30日(土)～5月18日(土)

参加費：お一人3,200円

お申込：多摩川源流ジャーニー特設HP

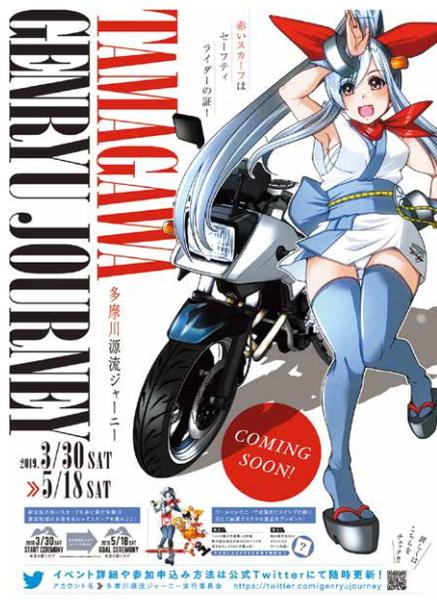
<https://tamagawa-journey.jp/>

スタートイベント：3月30日(土)道の駅こすげ

ゴールイベント：5月18日(土)道の駅こすげ

※両者とも荒天時は翌週に延期予定

(詳細はインフォメ/多摩川をご覧ください)



月刊「オートバイ」で連載している
鈴木秀吉先生による、オリジナルイラスト

道の駅こすげの源流レストラン、だんだんグレードアップしていますよ！

昨年末に小菅村の鹿肉をつかったクリスマスディナーをはじめたり、グランピングの施設を取り入れたりと冬の寒さを極限まで楽しむような仕掛けをだんだん練り広げてきています。これからの時期は、少しずつ暖かくなっていきますが、メニューにも小菅村の野菜が登場するなど、楽しみな取り組みがされると思います。

今後とも源流レストランから目が離せませんね！ぜひ小菅村にお越しの際はお立ち寄りください。(水曜定休)

乗馬体験&うまカフェが始まる

NPOスタッフで地域おこし協力隊の福本が1月1日から乗馬体験と併せて「うまcafé」の営業を開始しました。3年前に「馬を飼いたい。」という夢を追いかけているところ、小菅村の地域おこし協力隊募集を見かけ、横須賀から移住。活動1年目に飼えそうな土地を探し、2年目には土地と馬をゲット、3年目には開業して現在に至るという、小菅村で夢を実現させることができました。

これも地域の人たちに支えられ、彼女の活動を応援する方々が村内外に多くいることが、ここまで辿り着けた結果かもしれません。

ぜひ小菅村方面へお越しの際は、乗馬体験してみませんか！営業日はツイッターまたは、HPをご覧ください。

公式 Twitter

RivendaleHorseClub (リベンデールホースクラブ)

<https://twitter.com/rivendalehorsej>



釣り解禁

2019年の小菅川での釣りが3月2日(土)に解禁します。毎年この解禁日に併せて小菅川で例年釣りを楽しんでいるアングラの方々が有志で、釣り具やルアーやアウトドア用品の販売を行って、解禁日を盛り上げていただいております。今年は、キャッチアンドリリース区間が開設20周年ということもあり、年間券をご購入いただいた方には、記念品のプレゼントがあるそうです！

またNPOでは、昨年初心者向け釣り教室を開催し大好評だったので、今年も開催予定です！



「釣りを始めたいけど、どうすればいいのか？」と迷っている方、ぜひ小菅川で釣りデビューしましょう。

■ 2019年度遊漁期間

3月2日(土)正午～9月30日(月)

遊漁料 日釣券 1000円(現場売り 1500円)

(身障者・女性・中学生は500円、小学生以下は無料)

年券 5000円(女性・中学生は2500円)

多摩川に学ぶ

生きものと子ども



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

総合的学習の時間「多摩川探検隊」

生きものの居場所に会いに行く。それが小学校での私たちの総合学習のスタイルですが、子どもたちにとっては身近な場所だからこそ意味があります。通学路にある川で水辺ガサガサと探鳥会、きぬたまあそび村の遊び場である多摩川の原っぱで草地ガサガサを、3年生が学期毎に体験します。6年間でたった1回のチャンスを大事にしたいと、今年は増水が多い多摩川ではなく野川でのガサガサに変えました。

授業の後、子どもたちの感想文をプレゼントしていただきました。多く登場していた話題は、捕れた赤ちゃんナマズはヒゲが6本でしたが、生まれて1ヶ月経つと4本になると教えてもらったこと。人と違い大人になってヒゲが少なくなることが珍しかったのでしょうか。書くことが苦手な子どももしっかり書いてくれて、体験の力のすごさに改めて感動したと担任の先生は語っておられました。また、講師を務めたスタッフの一人は、この文章を書いたのはあの時のあの子どもだとわかると話しているなど、子どもひとりひとりに目を向けることの大切さを改めて実感しました。

実際に見て・聞いて・触れて・感動したことは、具体的なことばに置き換えることが可能です。豊かな自然体験は豊かな言語能力を育み、ひいては自分の気持ちを伝えたり、生きものや人を思いやる想像力につながります。大学で私が担当している授業でも地域で取材をしますが、社会と連携しながら学外で学んだり、ゲストティーチャーを招いて特色ある体験を語ってもらうことが多くなる傾向にあります。

ネットから簡単に検索でき、容易にコピーできてしまう時代だからこそ、実際に体験して感じるものの価値が高まって来ていると言えるのではないのでしょうか。



砧南小学校3年生の授業「水辺ガサガサ草地ガサガサ」

体験授業への子どもたちからの感想文



まちの生きものしらべ

世田谷区では、7月の夏休み時期から10月前半までの約2ヶ月半、子どもから大人まで誰でも自由に参加できる生きもの調査を、10年以上前から行っています。出会った生きものを写真や文章で報告するというものです。どんな生きものがどのような場所にどれくらい見られたか、集計とまとめのニュースレター制作を2017年度からお手伝いさせて頂いています。報告は郵送、ファックス、

電子申請など多岐にわたりますが、様々な人の参加しやすさに意味があります。そのためリピーター親子も多く、毎年継続して参加することで比べて見ることができます。



『まちの生きものしらべ2018』ニュースレター

また2012年「(一財)世田谷トラストまちづくり」発行の『生きものを楽しむガーデニング』は、親子で読んで実践してもらうことを想定して、楽しいイラストを生かし制作しました。生きもの目線で街を見て、生きものがどんな場所を好むのか思いやることをとおして、緑地にいる生きものを庭やベランダに呼び込む工夫を紹介しています。世田谷区は、みどり率33%を目指す長期計画「世田谷みどり33」を掲げていますが、人と自然の共生する豊かな環境づくりは、子どもと実践してみることから始まると思っています。



『生きものを楽しむガーデニング』冊子

多摩川改修 100 年

2. アミガサ事件の歴史的背景



国土交通省国土技術政策総合研究所
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

大正3年(1914年)9月16日、御幸村、日吉村、住吉村、町田村(現在の川崎市中原区、幸区、横浜市港北区、鶴見区)を中心として、田島村(川崎市大島)など、橘樹郡数百名の住民が神奈川県庁に押しかけ、多摩川の洪水を防ぐための堤防建設を訴えた、アミガサ事件は、どうして起こったのでしょうか。

そこには、多摩川の変遷にかかる歴史的な背景があります。

問題を引き起こした歴史的な背景を読み取ることができるのです。

古来から、多摩川の流れは、中原街道丸子の渡し上流の亀甲山にぶつかって、淵と瀬をつくり、その下流で大きく左右に蛇行を繰り返してきました。特に、御幸村(現在の川崎市中原区)と下丸子村(東京都大田区)のあたりでは、東京側に振られて流れることが多かったのです。

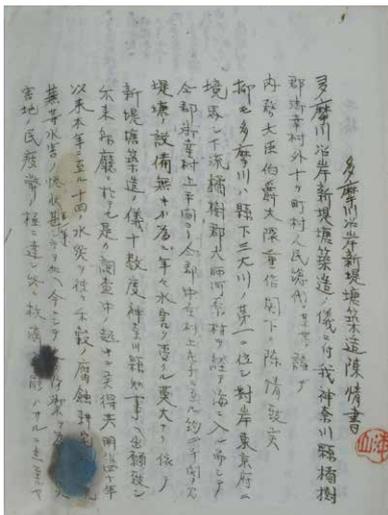
南北朝の時代(1300年代)、人形浄瑠璃の神靈矢口渡の頃には、下丸子の北側を流れていましたし、寛永年間(寛永21年(1644年))、下丸子村は橘樹郡下丸子村だったものが、元禄年間(元禄15年(1702年))には荏原郡下丸子村になっていて、江戸初期にも下丸子の北側を流れていたことがわかります。

さらに享保年間(享保10年(1725年))、田中休愚の改修の際には、下丸子村に流れ込む川筋を変えるため、せき止めのための締切り堤と、対岸に向かう新川掘削が行われました。また、川崎定孝による治水(寛保2,3年(1742,3年)、寛延2年(1749年))の際にも同様の工事が行われました。安永3年(1773年)の古地図には、この期間、多摩川の流れは、二重に分かれて流れていたことが描かれています。

これらに対抗するため、天保年間(1830~43年)には、下丸子村と、上流側の峯村の境に、流れに直角に、突堤が築かれました。これは、元文2年(1737年)、下丸子村の名主2名から代官に願い出たもので、100年の時を経て実現したものです。

この突堤は、明治年間からアミガサ事件の当時まで、大変有効に効いていて、突堤にぶつかった多摩川の流れは、対岸の御幸村に向かって流れ、下丸子村を救う一方で、御幸村には大きな脅威となっていました。

代表者10名の石原知事との会談を契機に、早速、地域住民の代表者たちは、多摩川改修問題の解決に向けて目覚ましい運動展開を進め、10月29日には10ヶ町村の総代からキーパーソンの内務大臣大隈重信に宛てて、多摩川沿岸新堤塘築造陳情書が提出されます。



多摩川沿岸新堤塘築造陳情書(大正3年(1914年)10月29日付、神奈川県橘樹郡十一ヶ町村長連名、内務大臣大隈重信宛て)

陳情の骨子は、御幸村上平間から中原村上丸子1,561間(約2,830m)の堤防建設ですが、その必要性の説明にあたっては、地域住民の視点からの近年の洪水の原因の分析として、

- 一. 下流二仮設セル三橋カ一原因
- 一. (対岸の)築堤及上置腹附カ二原因
- 一. 堤外地二果樹密植カ三原因
- 一. 砂利採掘カ四原因

の記載がなされ、その内容は多摩川の当時の実態を大変よくとらえています。そしてここに、この



第一軍管地方二万分一迅速測図原図(明治19年(1896年))にみる多摩川堤防の状況

また、平間の渡しの対岸、東京側、矢口村から下流の堤防は、東京府の改修事業により、明治年間を通じて、順次、かさ上げと腹付けによる補強が繰り返され、アミガサ事件の頃までには、現在のガス橋の下流から海までの東京側の堤防は、ほぼ現在の堤防の位置に、連続堤が出来ていました。

陳情書には、この経緯が詳しく、しかもかなりうらみがましく、記載されています。



川崎市下沼部、高水敷盗掘の亂状にして深き所は六米に達す多摩川砂利採取の状況(昭和10年(1935年当時))

一方で、神奈川県側、御幸村には、この区間、堤防がありませんでした。

これらの状況は、明治19年・第一軍管地方二万分一迅速測図原図、に読み取ることが出来ます。

なぜ、このようなアンバランスが生じてしまったのでしょうか。そこには、多摩川の歴史的な一大産業、多摩川砂利にかかる経緯があるのです。

多摩川の砂利採取は、江戸時代、文化3年(1807年)の江戸の大火による復旧工事に伴ってはじめられ、明治10年代後半から、近代都市東京の建設に伴い、本格的な砂利採取業が展開してゆきました。アミガサ事件の当時には、御幸村と、下丸子村には、砂利屋の親方が、何十軒もあって、たくさんのじゃりっぽりが暮らしていました。年間を通じて採取される砂利掘削によって、河原は、写真のように荒れ果て、河底はどんどん下がってゆき、陳情書の記載によれば、明治年間に、9mも河床を下げたことになるというものです。

この写真そのものは、アミガサ事件から20年後のもので、多摩川の砂利問題がもっともひどかった時のものですが、当時、すでに様々な問題を引き起こしていましたので、多摩川砂利発祥の地のこの地域では、この状況に近いものがあつたと思われます。

即ち、過剰な砂利採取の結果、東京側に振れることが多かった多摩川の蛇行を、神奈川県側に引き込んでしまった。このため、堤防建設の心配があまりなかった神奈川県側に、洪水が頻繁にあふれるようになってしまったというものです。御幸村の無堤の区域からあふれた洪水は、御幸村、住吉村、日吉村、町田村の全域を浸し、鶴見川に流れ込んでゆくことが、陳情書には生々しく記述されています。

アミガサ事件を引き起こし石原知事との会見を行った地域の人々は、この状況を打破するために、目覚ましい活動を進めてゆくのです。しかし、その道はなかなか多難なものでした。

多摩川改修100年プロジェクト

平成30年は、多摩川改修百年です



1918（大正7）年に国直轄の多摩川改修事業が始まり、100年の節目を迎えます。そこで、あらためて多摩川の治水の歴史を振り返り、これからももっと多摩川を知っていただき、より良い多摩川を目指すため、多摩川流域の自治体のご協力を得ながら、「多摩川改修100年プロジェクト」として各種イベントを開催しています。

エクスカーションツアーを開催

多摩川改修100年プロジェクトの1つとして、多摩川にまつわる史跡などを巡り、訪れた場所で案内人の解説に耳を傾けながら、参加者も現地での体験や議論を行い社会資本に対する理解を深めていく「体験型の見学会」を開催。

【第3弾】1月19日：多摩川河口域を巡る船上ツアー

多摩川河口域（幸町緊急船着場⇄大師河原河川防災ステーション（羽田空港沖経由））を「けいひん号」で巡りました。



けいひん号



船内でのパネル説明

多摩川改修100年メインイベント『多摩川を歌う』を開催

“多摩川の未来を担う子ども達へのメッセージ”をテーマとした多摩川改修100年に関わるパネルディスカッションと“多摩川”という歌詞が入った校歌などを沿川小学校の皆さんに歌っていただく合唱コンクールを開催。ゲストに本名陽子さんをお迎えします。

【日時】3月2日（土）13:00-16:00

【会場】川崎市総合福祉センターエポックなかはら
（神奈川県川崎市中原区上小田中6-22-5）

【参加校】富士見台小学校・住吉小学校・百合丘小学校・東菅小学校（順不同）



多摩川改修100年プロジェクト

多摩川改修100年プロジェクト

- ▶平成30年5月14日（月）
『多摩川改修100年発足式典』開催
- ▶平成30年7月23日（月）
『多摩川改修100年パネルリレー出発式』開催
- ▶平成30年7月23日～平成31年2月21日
『多摩川流域市区町村によるパネルリレー』実施
- ▶平成30年9月～平成31年1月
『エクスカーションツアー』実施
【第1弾】9月16日：アミガサ事件を巡るツアー
【第2弾】11月10日：砂利鉄道の歴史を巡るツアー
【第3弾】1月19日：多摩川河口域を巡る船上ツアー
- ▶平成31年3月2日（土）
『多摩川を歌う』 多摩川が歌詞に入っている校歌等を小学生が歌う
合唱コンクール及び多摩川改修100年に関わるパネルディスカッション



あきるの市役所パネル展示
(12/10～12/14)



稲城市役所パネル展示
(1/7～1/18)

各イベントの詳細につきましては
京浜河川事務所HPをご覧ください

多摩川改修100年
京浜河川事務所HP



ももかわ たま
百川多摩

多摩川改修100年
イメージ
キャラクター



京浜河川事務所
Facebook



京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>

京浜河川事務所の取り組みや 所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する
情報を、みなさんに分かりやすく発信していきます。多摩川改修100年の情報も発信します！

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所



インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の3月から6月に開催される環境活動に関する
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

美しい多摩川フォーラム

■ 1. 桜ウォーキングと桜守学校

(3月27日(水)：青梅駅～梅岩寺～釜の淵公園、リビング多摩)

■ 2. 多摩川夢の桜街道“美しき桜心の物語”の語り会

(3月30日(土)：八王子市・大光寺、語り部・平野啓子副会長)

■ 3. 桜ウォーキングと桜守学校

(4月5日(金)：武蔵小金井駅～都立武蔵野公園、リビング多摩)

■ 4. 多摩川“水”大学講座 (5月17日(金)：府中市男女共同参画センター)

■ 5. 多摩川一斉水質調査 (6月2日(日))

■ 6. 多摩川“水”大学講座 (6月21日(金)：府中市男女共同参画センター)

■ お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局 (青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当：及川 / 鈴木 / 木村

TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail forum@tama-river.jp URL <http://tama-river.jp>

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■ 野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

・4月21日(日)・5月19日(日) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

■ 初夏のバードウォッチング～多摩川周辺

・5月25日(土) 午前9時30分～正午ごろ ※要申込

■ 世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」

世田谷区成城4-29-1(野川沿い) / TEL03-3789-6111

・原則毎月第1日曜日 午後1時30分～3時 ※要申込

(4月のみ、4/7(日) さくらカフェ 午前10時～午後3時頃 ※申込不要)

■ 申込・お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

むさしの化石塾 = 多摩川の化石を教材にした環境教育学習教室です =

■室内ワークショップ 化石のバックヤード学習会 (収蔵資料をひもとく調べ学習)

内 容：むさしの化石塾で収集・保存されてきた貴重な化石標本をはじめ様々な化石教材に触れて頂きます。2時間の限られた時間内ですが、狭い収蔵庫に溢れる展箱に収納された収蔵化石標本群を自分たちで手に取って頂き、収蔵庫での再発見を楽しんでください。

- 4月テーマ：植物化石のバックヤード学習会 開催日時：4/13 (土) 14時～16時
- 5月テーマ：貝化石のバックヤード学習会 開催日時：5/18 (土) 14時～16時
- 6月テーマ：動物化石のバックヤード学習会 開催日時：6/15 (土) 14時～16時



加住ゾウ足跡化石見学

開催場所：

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7
むさしの化石塾にて

参加人数：1回 10名まで

(3回とも少人数限定実施)

参加費：1,000円

※要予約・事前参加申込み

※開催日1週間前までに郵便にて、連絡先、

参加者氏名をご記入の上、お申し込み願います。

※日程は変わることがあります。

■化石採集会 (オプションイベント)

※参加費：2000円 (資料代込み)

- 4月 連光寺層化石採集会 4/6 (土) 10時～14時
- 5月 小山田層化石採集会 5/11 (土) 10時～14時
- 6月 小宮層化石採集会 6/8 (土) 10時～14時

※詳細は郵便申込みを3月末までにされた方に別途ご案内いたします。

★むさしの化石塾に興味のある方は、氏名・住所・年齢・連絡先・質問事項など参加希望等の理由を明記の上、ご郵送にてお願いします。

■お問い合わせ先

GeoWonder 企画 むさしの化石塾

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7 MKJ 事務所

むさしの化石館 042-567-1095 (FAX)

MAIL geo@extra.ocn.ne.jp

むさしの化石塾 代表 福嶋 徹



森林総合研究所 多摩森林科学園

■森林講座

講座開催日	講座タイトル
3月16日(土曜日)	災害調査に使われる最新技術

会 場：多摩森林科学園 森の科学館

時 間：各講座とも 13時15分～15時

受講料：無料（ただし、入園料として大人300円、子供50円必要となります。）

お申込：お申込の受付は各講座開催日の前月の1日からといたします。

（例）5月9日の森林講座の受付は、4月1日到着分から
受付は先着順で定員に達したら締切となります。定員に達しない時でも講座開催日の1週間前が締切
となります。応募受付の回答は、先着順で順次お知らせします。

往復はがき、または電子メール shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp で承ります。

ご希望の講座名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加希望者数をご記入の上、お申込ください。

なお、それぞれのお申込1通に対し、1講座3名までの受付とさせていただきます。

※ご提供いただいた個人情報は、森林講座の連絡にのみ使用させていただきます。

■お問い合わせ先

多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81

TEL 042-661-1121 Email shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

みずとみどり研究会

■第16回身近な水環境の全国一斉調査のお知らせ

日 時 2019年6月2日(日) ※世界環境デー(毎年6月5日)

測定項目 気温、水温、COD、その他(任意)

測定方法 取扱説明書にもとづき、調査キットで測定

(参加申込者に2019年4月末～5月頃に配布予定)

参加申込 同封の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の事務局

と締切り **(みずとみどり研究会) に、2019年3月10日(日) までに必ずご送付下さい。**

なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、
ご本人の許可なく使用いたしません。

申込受付 参加申込された団体はホームページ等で公表させていただきます。

■お問い合わせ事務局

事 務 局 全国水環境マップ実行委員会

みずとみどり研究会気付

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-1-28 飯塚ビル 202

TEL/FAX 042-327-3169 E-mail mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL <http://www.japan-mizumap.org>

アミガサ事件 100 年の会

■ 記念講演

講演内容：「有吉忠一と多摩川」

講師：松本 洋幸 氏

大正大学 文学部准教授 博士（歴史学）（日本史）

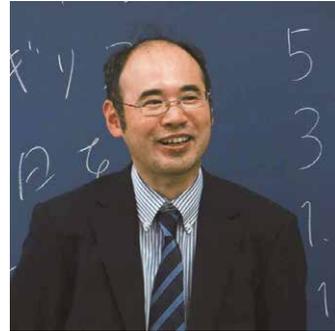
日時：2019年5月25日（土）午後1時30分～3時

会場：セレサ川崎農業協同組合 御幸支店 2階会議室

川崎市中原区田尻町31（平間駅から徒歩1分）

参加費：無料

お申し込みは FAX または電話でお願いします。



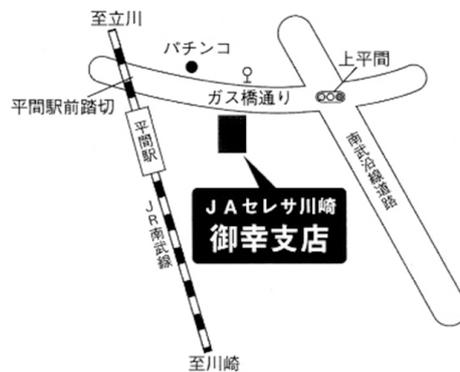
■ 申込先

アミガサ事件 100 年の会

織戸美紀世

TEL 080-9572-7479

FAX 044-511-1812



アミガサ事件 100 年の会

川崎市域水辺の楽校

■ 川崎市域水辺の楽校

とどろき水辺の楽校開校式

（植物観察会・しおりづくり・ガサガサ観察会・野草天ぷら他）

日時：4月29日（月/祝）10:00～13:00

場所：とどろき河川敷

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
	6月16日（日）10:00～12:00 3校合同干潟観察会 大師河原干潟館	

■ お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

Eメール info@todoroki.org http://www.todoroki.org

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

■ 「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。

世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～ 17 時（3 月まで 16 時 30 分）

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大総合グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

時間と場所：イベントは「きぬたまあそび村」の活動内に、時間を区切って行います。

★イベント案内

◎ヨモギ団子づくり

多摩川博士・えのきんと、ヨモギを摘んでお団子を作ります。

3 月 30 日（土） 11:00～15:00 材料費：200 円

◎野草の天ぷら

食べられる野草を採取して、春の多摩川を満喫しましょう！多摩川博士・えのきんの「多摩川の野草プチ講座」あり

4 月 13 日（土） 11:00～15:00 材料費：200 円

◎砧地域子育て交流事業 合同おでかけひろば「春のきぬピク」

砧地域の 6 児童館が、きぬたまあそび村にピクニックに来ます。

4 月 20 日（土） 11:30～13:30

◎きぬたまあそび村 20 周年を祝おう

4 月 27 日（土） 子どもたちと埋めたタイムカプセルをオープン

◎宇奈根の渡し実行委員会主催「宇奈根の渡し」

喜多見児童館の子どもたちが世田谷区と川崎市の宇奈根を渡し舟でつなぎます。きぬたまあそび村では、川の安全管理と自然遊びコーナーを担当します。

5 月 12 日（日） 11:00～14:30

場所：多摩川河川敷世田谷区宇奈根 1 丁目地先

◎アートの日 毎月第 2 水曜日 11:00～13:00

◎体あそびの日 毎月第 1・第 3 金曜日 11:00～12:00

◎竹工作の日 毎月第 3 月曜日 14:00～16:00

詳細はブログなどに UP します。下記にてご確認ください。

■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



ヨモギ団子



野草の天ぷら



初期のきぬたまあそび村



きぬたまあそび村

NPO 法人多摩川エコミュージアム

■第 15 回 多摩川桜のコンサート

日 時：4月6日（土） 12:00～15:00 無 料
 場 所：ニヶ領せせらぎ館前広場 （雨天時は館内で一部開催）
 内 容：ニヶ領用水沿いの桜の花の前でコンサート
 和太鼓・篠笛・リトミック・合唱・声楽など
 主 催：川崎市 NPO 法人多摩川エコミュージアム
 （2018年4月7日（土）開催「桜のコンサート」写真です）



■多摩川幼児サロン（リトミック） なかよしランド（参加をお待ちしております）

日 時：4月2日（火） 10時30分～11時10分
 5月7日（火） 10時30分～11時10分
 6月4日（火） 10時30分～11時10分

ソプラノ歌手「さくらい すみえ先生」の言葉

こどもたちは、ニヶ領せせらぎ館の周りにある木々や花の色、鳥の鳴き声。
 四季があることで、毎月自然は変わっていくことを確認している様です。

場 所：ニヶ領せせらぎ館 2階 或いは 前広場
 参加費：親子1組 300円
 主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム



さくらい すみえ先生



■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館（にかりょうせせらぎかん）
 電 話：044-900-8386 URL：<http://www.seseragikan.com/>
 住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1
 開館時間：10:00～16:00 5月～8月の土日・祝日は9:00～16:00
 休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）

せたがや水辺の楽校

■ 2019年度開校式：2019年4月21日（日）11時～15時

毎年一年のはじめに開催する「開校式」今年で14回目です。

- ・開催場所：せたがや水辺の楽校原っぱ（二子玉川緑地運動場ピクニックひろばとなり）
- ・セレモニー（東京都立世田谷総合高校吹奏楽部の演奏など）
- ・ネイチャーゲーム、お魚のすみかづくりなど ※お弁当は各自ご用意ください。

■ あそびの日（第1日曜日10時～12時）

- ・開催日5月5日（日）・6月2日（日）10時集合
- ・集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ / 野川ベース（二子玉川駅近く野川）
- ・インタープリター、川の専門家と生き物を捕まえて観察します！



開校式セレモニー



お魚のすみかづくり

■ お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail info@mizubedesign.org

TEL 080-3007-5413（村上）

HP <https://mizubedesign.org>

ブログ <https://semizube.exblog.jp/>

FB <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



水辺ガサガサ

～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

東京都市大学 / (一社) 生物多様性アカデミー

世界の100以上の都市の生き物情報を
スマホでつなげる市民科学プロジェクト！

ver.181120



City Nature Challenge 2019-Tokyoに参加してみよう！

2019. 4.26-4.29
参加
無料

4/26~29の4日間、世界各国の都市で植物や動物を撮影してウェブサイトに掲載する、世界同時開催のイベント“City Nature Challenge2019”(CNC-2019)が開催されます。日本からはTokyoがエントリー！投稿の「観察数・種数・参加人数」を世界中の参加者と競いあいます。

Tokyoのメンバーになろう

参加は1人でも
いつもの仲間とでも可能です

サイトやアプリから“iNaturalist”にアカウント登録し、東京で見つけた動植物の写真を投稿することで、都内のどこからでもTokyoメンバーとして参加できます。

参加はかんたん！

撮影した画像の投稿は、スマホから専用アプリで手軽にできます。撮影した動植物の名前が分からなくても、AIがその場ですぐに提案してくれたり、専門家が同定に協力してくれます。知らなかった生き物や、国内外の多くの参加者との出会いも楽しみのひとつです。

オーガナイザーからの一言



2019-Tokyo オーガナイザー

小堀 洋美

東京都市大学特別教授
(一社)生物多様性アカデミー代表理事

このイベントは“iNaturalist”という、世界で100万人が参加する「種の多様性」に関する市民

科学プロジェクトのアプリを用いて開催されます。プロジェクトを通じて、各都市の市民が都会の生き物の豊かさを発見し、研究者や多様な組織と情報を共有しながら、国際的な生物多様性のデータベースや研究に貢献することにもなります。

CNC-2019スケジュール

期間	イベント
4/26 以前	iNaturalist とCNC2019-Tokyo に参加登録
4/26 ~ 4/29	CNC-2019を全世界で開催！世界100都市で一斉に投稿スタート
4/30 ~ 5/5	投稿データを世界中の専門家が同定
5/6	参加各国の順位や成績など結果発表

お問い合わせ

(一社)生物多様性アカデミー
City Nature Challenge2019-Tokyo
お問い合わせ窓口
cnc-tokyo@bda.or.jp



★CNC2019-Tokyoへの写真投稿は
2019年4月26日から可能になります

CNC2019プロジェクト企画
カリフォルニア科学アカデミー/ロサンゼルス自然史博物館
CNC2019-Tokyo主催団体
東京都市大学/ (一社) 生物多様性アカデミー

みんなで参加できるイベントを二子玉川で開催！

2019年4月27日(土)・28日(日)

東京都市大学 二子玉川夢キャンパスにて、どなたでも参加できるCNC2019-Tokyoイベントを開催します。詳細は近日、夢キャンパス公式サイトで発表しますのでお楽しみに！

NPO 法人多摩源流こすげ事務局

多摩川源流ジャーニー

開催期間

2019年3月30日（土）～2019年5月18日（土）

スタートイベント

2019年3月30日（土）道の駅こすげにて開催予定！ ※荒天時は翌週に延期予定
参加の皆様には多摩川源流の神主による交通安全のお祓いを受けていただき、無事故安全にツーリング・ドライブを楽しんで頂きたいと思っております。

ゴールセレモニー

2019年5月18日（土）道の駅こすげにて開催予定！ ※荒天時は翌週に延期予定
豪華景品が当たる抽選会を開催！

参加資格

1. 二輪車（原付き可）または自動車をお持ちの方
2. 違法改造の無い車両
3. バイク（または車）が好きな人

参加ルール

1. チェックポイントを期間内に巡り、飲食やお買い物等して鹿皮タグを集めてください。
2. 鹿皮タグ自体が抽選券にもなるため、多くのお店を回るほどゴールイベントでの抽選会の当選確率が高くなります。
3. 鹿皮タグを貰うには、お会計時に自分が参加者であることを伝えてください。（参加証のスカーフも忘れずに見せてください。スカーフがない場合、鹿皮タグをお渡しできない場合がございます。）
4. 参加中はスカーフ（参加証）を首など見えやすいところに装着をお願い致します。
5. 開催期間中に事故や、違反切符を切られたものは失格となります。（実行委員会では確認出来ないのをご自己判断です。）
6. 安全のためのプロテクター（特に胸部）着用を推奨します。
7. 当イベントで手に入れたグッズや配布物等の転売は禁止します。
8. イベント参加中に発生した事故やトラブル等について、実行委員会では責任を負いかねます。（自己責任です。）

参加方法

クラウドファンディング「CAMPFIRE」にて事前お申し込み開始！
お申込みはこちらから➡ <https://camp-fire.jp/projects/view/118205>

参加費

1人 3,200円（うち200円は参加セット一式の送料です）

参加セット

- ・参加証スカーフ
- ・鹿皮タグ用のストラップチェーン
- ・参加にあたっての注意書き

GENRYU JOURNEY TAMAGAWA

多摩川源流ジャーニー



赤いスカーフは

セーフティ

ライダーの証！

COMING
SOON!

2019. **3/30 SAT**
» **5/18 SAT**

参加証の赤いスカーフを身に着て多摩川源流地域のお店をまわってスタンプを集めよう！

2019 **3/30 SAT**
START CEREMONY
@道の駅こすげ

安全運転を心がけ
スタンプを集めよう

2019 **5/18 SAT**
GOAL CEREMONY
@道の駅こすげ



ゴールセレモニーでは集めたスタンプの数に応じて抽選でステキな景品をプレゼント！

景品1

「バイク擬人化図書」の作者、鈴木秀吉先生があなたのバイクを描きおろしイラストで擬人化！

その他にもさまざまな企画を検討中♪

景品2

鈴木秀吉先生のイラスト入りサイン色紙！



詳しくはこちらを
チェック!!



イベント詳細や参加申込み方法は公式Twitterにて随時更新！
アカウント名 » 多摩川源流ジャーニー実行委員会 <https://twitter.com/genryujourney>



小菅村

■水と火と味の祭典

「第 32 回 多摩源流まつり」

日 時：2019年5月4日（土）午前11時～午後8時頃

会 場：小菅村4,299番地「第1スポーツ広場」及びその周辺

多摩川の源流に位置する小菅村において、最大の規模を誇っているイベント「多摩源流まつり」は、今年で32回目を迎えます。この祭りは、村民が一丸となって作り上げる祭りであり、毎年1万人を超える人出で賑わいます。

会場では、小菅村の特産品・郷土料理の販売、多摩川流域の郷土芸能の披露、マスのつかみどりなど楽しい企画が盛りだくさんです。夜にはお松焼き、ファイヤーダンスが行われ、約2,500発の花火が夜空を彩ります。

ゴールデンウィークは是非、ご家族おそろいで、小菅村へお越しください。



TAMA FOUNTAIN
KOSUGE-MURA

■お問い合わせ先

山梨県北都留郡小菅村 4698 小菅村役場 源流振興課内

多摩源流まつり実行委員会事務局

TEL 0428-87-0111 FAX 0428-87-0933

公式ウェブサイト <http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/tourism/>

とうきゅう環境財団 一年のうごき

1 事業日誌 (2018年1月～2018年12月)

1月19日	2018年度助成研究・活動の公募締切 (応募件数 50件) (新規 41件 継続 9件)
3月1日	財団だより“多摩川”第153号発行
3月12日	第21回理事会 2018年度事業計画・収支計画の承認 ほか
3月14日	第60回定時選考委員会を開催 2018年度助成研究・活動を採択 新規 (学術研究 8件、一般研究 7件) 継続 (学術研究 7件、一般研究 2件)
3月16日	多摩川船上観察会 (主催:国土交通省京浜河川事務所、会場:川崎市など) に参加
3月22日	産官学意見交換会 (主催:国土交通省京浜河川事務所、会場:川崎市) に参加 堤防刈り草からのペレット製造体験
3月24日	第16回評議員会 2018年度事業計画・収支計画の承認 監事1名の選任
3月27日	2018年度事業計画を内閣府に提出
4月1日	第10回社会貢献学術賞 推薦依頼開始
5月4日	第31回多摩源流まつり後援 開催場所:山梨県小菅村
5月18日	多摩川“水”大学講座を開催 (美しい多摩川フォーラムとの共同開催) ～11月16日までの全6回 講師:小倉紀雄氏 (美しい多摩川フォーラム副会長・東京農工大学名誉教授) 会場:財団会議室
5月29日	第22回理事会 2017年度事業報告・決算の承認 ほか
6月1日	財団だより“多摩川”第154号発行
6月1日	環境学習副読本「多摩川へいこう」の増刷・贈呈 (2018年末までに 多摩川流域の小学校51校へ6,653部)
6月6日	クリエイティブ・シティ・コンソーシアム報告会 (主催:東京急行電鉄、会場:渋谷区内) に参加
6月7日	環境賞 (主催:国立環境研究所、日刊工業新聞) 表彰式に参加 会場:霞山会館
6月12日	第23回理事会 第22回理事会議案の一部変更

- 6月13日 第17回評議員会
2017年度事業報告・決算の承認
評議員10名の選任
- 6月26日 2017年度事業報告等を内閣府に提出
- 6月26日 日本水大賞（主催：日本水大賞委員会、国土交通省）表彰式に参加
会場：日本科学未来館
- 7月18日 2018年度助成金贈呈式を、渋谷エクセルホテル東急で開催
新規研究者15名、継続研究者9名に助成金を贈呈
研究者および来賓、評議員、理事、選考委員など約80名が出席
- 8月28日 財団設立44周年
- 9月1日 財団だより“多摩川”第155号発行
- 9月1日 2019年度助成研究・活動の公募開始
- 9月12日 滋賀県立琵琶湖博物館を視察
統括学芸員と意見交換
- 9月28日 第10回社会貢献学術賞選考委員会を開催
東京大学名誉教授・日仏工業技術会名誉会長、高橋裕氏に決定
- 10月5日 日本陸水学会・大会に参加
会場：岡山大学
- 10月5日 環境学習会（主催：東京急行電鉄）に参加
「川と環境の関わりと財団の役目について」講演 財団事務局次長 凶師真吾
会場：東京都市大学 二子玉川夢キャンパス
- 11月14日 第24回理事会
吸収合併契約書の締結 ほか
- 11月27日 2018年度 第10回社会貢献学術賞贈呈式をセルリアンタワー東急ホテルで開催
受賞者（高橋裕氏）および来賓、評議員、理事、選考委員など約80名が出席
- 11月29日 第18回評議員会
吸収合併契約書の承認
定款一部変更 ほか
- 12月1日 財団だより“多摩川”第156号発行
- 12月1日 シンポジウム「市民が選ぶ玉川上水と分水網の関連遺構100選」
協賛と参加
主催：玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会
会場：法政大学市ヶ谷キャンパス
- 12月6日 展示会「エコプロ2018」視察
出展中の大学関係者と意見交換
主催：産業環境管理協会、日本経済新聞社
会場：東京ビッグサイト

2 研究助成事業

当財団では、2018年度研究助成金贈呈式を、7月18日渋谷エクセルホテル東急で開催し、4月を開始月とする新規の助成研究15件に助成金を贈呈いたしました。

2017年度からの継続研究9件も承認されていますので、本年度は24件を助成しております。ここに全助成研究をご紹介します。

また2017年度までに完了した助成研究に関する成果報告書の概要を掲載します。

(所属・役職は助成開始時のものです。)

新規 学術研究 助成金受領者



端 昭彦 (はた あきひこ)

東京大学大学院 工学系研究科
都市工学専攻 特任助教

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,010,000円

研究課題

多摩川における感染力を有した
腸管系ウイルスの動態解明

多摩川に流入する下水処理水にはノロウイルスなどの、ヒトに感染し胃腸炎を引き起こす「腸管系ウイルス」が存在することは多くの研究で確かめられているが、これらの大半は感染力の有無を評価していない。腸管系ウイルスは他の微生物種と異なり水処理過程での除去や不活化（感染力を消失させる）が難しく、低濃度でも感染を容易に成立させることから、その健康リスクに関する調査が世界中で行われている。しかし、知見の集積は充分でなく、明確な対策はほとんど見いだせていない。

本研究では、多摩川における総ウイルス濃度と感染力を有したウイルス濃度を調べることで、多摩川におけるウイルスの不活化度合いを明らかにし、さらに、環境因子がどのように不活化に影響を与えるかも明らかにすることで、都市における河川水利用に関する腸管系ウイルス感染リスク評価を試みるものである。

これにより、多様な環境下におけるウイルスの動態やウイルス不活化率が明らかになることで、感染リスクに基づいた適切な水中ウイルス管理手法の確立が期待される。



鏡味 麻衣子 (かがみ まいこ)

横浜国立大学環境情報研究院 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,380,000円

研究課題

多摩川河口域における
水生菌類の多様性と有機物分解機能の評価

従来、水中の有機物分解における役割は主に細菌類が担っていると考えられ、菌類（カビやキノコの仲間）は全く考慮に入れられてこなかった。多摩川などの河川の上流域では、落ち葉や倒木の分解に菌類が重要な役割を担っているが、下流域などの「淀み」における分解過程については、菌類がどの程度関与しているのかは不明である。また、これまでの研究の多くは水中の有機物量増加（富栄養化）の指標としてBOD、COD等の数値が用いられているが、有機物の種類や分解者の特性についてはほとんど考慮に入れられていない。

そこで本研究では、多摩川河口域から東京湾にかけて、汚染・汚濁の程度が異なる地点における菌類の多様性と有機物分解能力を明らかにし、多摩川における有機物の分解過程を菌類を切り口に評価を行う。

これにより、分解が困難な有機物の蓄積や、水中の貧栄養化などの環境問題の解決策を見だし、さらに、その手法を環境アセスメント・モニタリングの現場で活用することで、多摩川流域の環境の保全や管理に役立てることが期待される。



黒木 真理 (くろき まり)

東京大学大学院 農学生命科学研究科
助教

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,000,000円

研究課題

多摩川水系における
ニホンウナギの保全のための資源生態調査

多摩川は、人間社会と自然の関わり方を考察するうえでモデルとなる都市河川である。その象徴として魚道整備と魚の放流、中でもニホンウナギの放流が挙げられるが、それが環境に与える影響や効果について、科学的検証は行われていない。

本研究では、多摩川水系においてニホンウナギの生態調査を実施し、本種の河川内分布と資源量の現状を把握する。さらに、護岸の度合い、人工堰と魚道の構造、夜間照明などの都市河川環境がニホンウナギの生態に与える影響を明らかにし、本種の資源増加につながる河川環境の保全と、放流効果に関する科学的知見を提供する。

これにより、ウナギの保全・回復のための対策の検討が進み、ウナギの効果的な増殖対策の提言への活用が期待される。さらに、この研究結果は、多摩川における他の魚類相（アユなど）の網羅的推定など他の課題への応用や、地域住民への自然環境資源への関心の高揚も期待できる。



岡田 往子 (おかだ ゆきこ)

東京都市大学 工学部 原子力研究所
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,500,000円

研究課題

多摩川水系における天然及び人工
放射性物質の環境総合評価

2011年の福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質は関東圏にも大きな影響を与えた。現在、放射線量は事故前とほとんど変わらない値となっているが、一般に使用されている放射線量測定器では、天然由来のものと事故由来のものを区別することができないため、一般市民の感覚では、汚染に関する懸念が完全には払拭されていない。

そこで本研究では、これまでに申請者らが蓄積してきた測定技術を用いて、多摩川周辺の放射線量の起源を調査し、放射性物質の定量を行うことにより、多摩川流域の自然の放射能の総合評価を行う。具体的には、1980年代の先行研究における河川水の微量元素のデータから当時の放射性物質を推測し、本研究で新たに採取した河川水から得た放射性物質のデータと比較評価を行う。

これにより、一般市民への放射性物質への理解を促すとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、海外への信頼を与えることができる。



山村 雅幸 (やまむら まさゆき)

東京工業大学 情報理工学院 教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,464,200円

研究課題

多摩川の微生物生態系モデル構築による
下水処理水の影響や季節変動の解析

多摩川には下水処理水が放流されており、下流ではその割合は5割に達する。処理水は、放流時には各環境指標が基準値以下になるように処理されているものの、微生物生態系にさまざまな影響を与えていることが、過去の研究において示唆されている。しかし、微生物生態系を表現するモデルが構築できていないため比較解析ができないなど、研究間のつながりは脆弱であった。

そこで本研究では、複数の採取地点と時系列のデータから、多摩川の上流から下流までを統合した微生物生態系モデルを構築する。たとえば、微生物同士の相関関係を考察することで、問題となる微生物を間接的に制御する方法を見いだす。また、地点ごとの差異を見ることで、水再生センターの処理水が生態系に与える影響を評価する。

これにより、処理水成分や温度などの環境の影響評価や、シミュレーションによる問題の予測ができ、多摩川における悪臭、多耐性菌、環境汚染成分など、多くの課題解決に活用されることが期待できる。



今井 伸夫 (いまい のぶお)

東京農業大学 地域環境科学部
森林総合科学科 森林生態学研究室
准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,534,860円

研究課題

多摩川源流域における「耕作跡地の二次草原」
の生物多様性とその時空間動態

かつて里山に多く見られたカヤ場などの非耕作地は草原性希少種の宝庫であったが、燃料革命や過疎化に伴って樹林化が進んだ。一方、多摩川源流域の小菅村のように、集落の傍らで二次草原が新規に成立している例もある。しかし、申請者らは過去の研究の結果、耕作跡地の二次草原では希少な植物種がほとんど存在しないことを見いだした。

本研究では、耕作による土壌攪乱と種子の散布制限が耕作跡地の生物多様性低下の原因となっている可能性について検証するとともに、植物の多様性が昆虫の多様性にも影響する可能性を検証する。さらに、聞き取り調査や空中写真判読から土地利用履歴を明らかにし、里山の草地景観全体における生物多様性の時空間動態と、その変遷のメカニズムを明らかにする。

これにより、二次草原の復活を目的とした保全活動等において、適切な対象地を選定することによって生物多様性保全の効果を最大化することができる。また、生物多様性低下への効果的な対処法開発、優先的保全エリアの選定などにも寄与することができる。



元木 悟 (もとき さとる)

明治大学農学部農学科・野菜園芸学
研究室 准教授

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,446,000円

研究課題

多摩川流域のアブラナ科アブラナ属の地域在来野菜における遺伝的由来と品種および栽培特性に関わる研究

本研究では、多摩川流域の希少な野菜類の遺伝資源活用の観点から、「のらぼう菜」と「在来コマツナ」の2品目を対象とする。

「のらぼう菜」は、多摩川流域で伝統的に栽培されてきた、アブラナ属の葉菜であるが、セイヨウアブラナとの遺伝的特性の違いや、栽培における基礎的知見は、野菜園芸学の分野でも未解明の領域である。「のらぼう菜」の、セイヨウアブラナ集団との遺伝的類縁関係を明らかにし、その由来を把握するとともに、特有の栽培管理の処理法を検討することで、その栽培法を生産現場に応用可能な段階まで解明する。

「在来コマツナ」(仮称)は多摩市で発見されたもので、一般的なコマツナとは形態が異なる。他のアブラナ属との類縁関係や品種特性等を解明することで、新たな地域在来野菜となる可能性を探る。

これらの研究により、固有な野菜類の遺伝資源が宅地開発によって急激に減少した多摩丘陵において、地域在来野菜による営農面でのブランド化と、世間一般への認知が期待できる。



高尾 美鈴 (たかお みすず)

中央大学大学院経済学研究科
(博士後期課程1年)

- 研究期間：2年
- 助成金額：1,087,000円

研究課題

多摩川流域の観光発展と
環境教育の役割について
—一人々の観光に関わる行動分析と観光政策—

多摩川流域では河川を利用した自然体験型の観光が行われており、環境学習の場となっている。多摩川流域での観光が訪問客の環境意識や環境配慮行動に及ぼす影響について要因分析を行うことで、データを用いて有効性を述べる事が可能になる。

本研究の目的は、多摩川流域における観光開発の現状をふまえて、どのような観光開発が環境保全につながるのか、その関連性を分析するものである。主な着眼点は、多摩川流域の観光客の特性(特に環境配慮的な行動)、およびエコツーリズムに基づく観光政策の効果である。

本研究により、多摩川流域における観光客等の環境配慮行動を促すための政策のあり方を示すとともに、環境教育の有効性を示すことが可能となる。たとえば、多摩川流域の自然や文化を敷衍した持続可能な観光開発の政策の考察や、小中学校での観光に繋がる環境教育の重要性の提示などである。これらを通じて、環境保全に資する政策上の示唆を与えることができる。

新規 一般研究 助成金受領者



鈴木 利博 (すずき としひろ)

学び舎江戸東京ユネスコクラブ
水と緑・環境委員長

- 研究期間：1年
- 助成金額：800,000円

研究課題

小平市内における玉川上水系分水路網の基礎的環境調査（玉川上水中流域の小川分水と分水路網の残存状況調査）

小平市内の玉川上水分水網は、野火止用水、小川分水など9分水を張り巡らせて村落形成の要となり、現在でも多摩川の水が給水されている。しかし、近年の都市化の影響を受け、土・石・木で作られた伝統的分水路網は埋められ、あるいは道路や排水路に転用され、その姿は徐々に消えようとしている。

本研究は、これらの現存する全長約50kmの分水路に関する資料の解釈、現地調査（水路の形状、材質、利用形態、遺構、植生、生物環境等）をふまえて分水路の略歴、地図、写真等を取りまとめるものである。

これらの情報を市民に公開することによって、先人の「知恵」を明らかにするとともに、児童・生徒の現地学習での活用が期待できる。また、利用されている旧来の工法等の再評価により、小平市や各種団体が進める、まちづくり事業計画などへの提言や参画を目指す。これらによって、水路の存在価値の再認識を促し、市民に水の恩恵を受けさせ「未来遺産」として伝承するための方策を示すことができる。



柴田 隆行 (しばた たかゆき)

多摩川の自然を守る会 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：526,000円

研究課題

多摩川における日本在来河原植物の分布調査

多摩川の河原植物は激減の一途をたどっている。その原因は河川区域の二極化、すなわち高水敷の樹林化と水路の固定化にある。

本研究は、多摩川全域における河原植物の分布調査（2013年度の当財団による助成研究の追跡調査）を行う。具体的には、多摩川のどこに、どれだけ河原植物が現存しているかの調査を2年間にわたり実施し、結果を経年比較検討する。また、調査結果を地図上に明示して、専門研究者や河川管理者等に基礎資料として提供する。

これにより、たとえば、国土交通省が行う河川工事に際し、絶滅危惧植物に配慮したきめ細かな工事計画の作成を促すなど、河原植物の保護に寄与する具体的な計画や政策の実現が可能となる。前述の2013年度からの研究の成果は、このような形で実際に工事計画に取り込まれ、政策に活用されている。このように、研究成果が今後さらに積極的に活かせるよう、本研究終了後は調査データの整理にも取り組みたい。



小坂 克信 (こさか かつのぶ)

立川市史編さん委員

- 研究期間：1年
- 助成金額：472,700円

研究課題

用水を地域資源として活用するための水利用の歴史 —砂川用水を例にして—

玉川上水の分水の一つである砂川用水は、明治3年分水口の改正によって11分水が統合され、現在の昭島市から調布市まで水が流れるようになり、その後砂川村外七ヶ村普通水利組合が結成された。この組合は、水道以前の地域の人々の水利用を支えたが、その歴史的経緯は明らかでない。

本研究は、この用水組合の活動を中心に、水利用の歴史を明らかにする。主に、分水口の統合から組合成立まで、組合成立後の活動、その後の土地改良区の成立から解散までの3区分を中心に文献調査をする。さらに、写真撮影等の現地調査や聞き取り調査を行いたい。

この調査によって、従来断片的にしか判明していなかった水利用の歴史的経緯が明らかになるので、2016年に未来遺産として登録された「玉川上水とその分水網を活用するプロジェクト」の活動に貢献できる。さらに、この研究成果をもとに教材を作成すれば、分水の歴史について学校教育の場で活用することができる。



福嶋 徹 (ふくしま とおる)

Geo Wonder 企画 むさしの化石塾 代表

- 研究期間：1年
- 助成金額：600,000円

研究課題

多摩川産軟体動物化石を利用した環境教育実験と市民参加型・調べ学習による「第四紀学」の古環境復元の研究

多摩川中流域では、川の流れによる地層の浸食が近年顕著に進行し、その結果、埋もれていた化石が次々と露出し、ダイナミックな地質現象を誰でも簡単に観察できる条件が揃っている。しかし、現状では観察に必要な情報提供が一般市民に充分になされていないために、その事実を多くの市民は知らない。

そこで本研究では、「化石の調べ学習による、第四紀学の古環境復元の研究」の機会を準備し、一般市民が古環境の実態を体感し、継続的に学んでいける仕組みをつくる。具体的には誰でも簡単に見つけることができる貝化石を利用した市民参加型の環境教育実験をおこなう。野外体験と採取化石の分布調査、3Dプリンターによる学習教材の作成、調べ学習・研究プレゼン会の開催である。

この仕組みが定着すれば、多摩川流域の古環境情報の一般普及、地域自然史・自然科学教育の人材育成につながるなど、社会への寄与が期待される。



辻野 五郎丸 (つじの ごろうまる)

玉川上水域研究会 代表

- 研究期間：1年
- 助成金額：750,000円

研究課題

玉川上水・分水網の保全再生と
フィールド・ミュージアム展開に関する調査

玉川上水とその分水網のネットワークは、羽村堰を頂点として武蔵野台地を樹枝状に展開し、低地・下町へと連なる。それは、水のネットワークのみならず、情報のネットワークとして見ることもできる。各地域に点在する用水の遺構や流路の痕跡をたどれば、膨大な自然・歴史文化の展開を実感できるからである。

すでに、2015～16年の申請者らによる調査で、水路の痕跡図、地域ごとの関連遺構の発掘調査の概要は整理され、関連する市民ネットワークも形成されつつある。今後はこれらの調査結果や活動を統合し、情報の共有化を図ることにより、武蔵野台地を舞台とした玉川上水・分水網の「フィールド・ミュージアム」としての展開が可能と考えられる。

これにより、これまで地域ごとにとどまっていた個別の調査結果が共有されることで、玉川上水・分水網の全体像が明らかになるとともに、保全再生、利活用の方向性が明確になる。さらには、玉川上水・分水網への多摩川の水の通水、日本遺産・世界遺産への登録など、長期的な保全再生のための基礎が形成される。



井口 三月 (いぐち みつき)

御岳山苔の会 代表

- 研究期間：2年
- 助成金額：354,680円

研究課題

御岳山山域 蘚苔類フロラ調査
—御岳山の苔の魅力を発掘し、
大切な資源として後世に遺すために—

都市部から丘陵地、山岳地帯まで、東京都の自然は豊かな生物多様性を育んできた。これを維持するために、生態系の基盤となる植物相（フロラ）の調査は特に重要である。しかし、東京都において、この調査と結果の公開は、主に維管束植物について行われており、蘚苔類（コケ植物）に関しては不十分である。申請者の所属する「御岳山苔の会」では、2014年から御岳山を中心に、さまざまなコケの姿を記録し発信してきたものの、同定の難しさから、後世に残せる有用な記録が蓄積できないでいる。

本研究では、御岳山域を調査地とし、そこに出現する蘚苔類の分布を記録し、フロラを解明する調査を実施する。

将来は、この研究結果をもって御岳山の苔の魅力を観光協会、自治会等の関係機関に伝えるとともに、エコツアーやイベントの開催、リーフレットの作成などの活動を展開することを予定している。



北村 敏 (きたむら さとし)

グループ・みずと暮らすひの

- 研究期間：1年
- 助成金額：386,660円

研究課題

21世紀初頭における多摩川および浅川水系流域の残存灌漑水田の立地環境の人文的実態把握調査と水田・用水保全活用に向けての将来的課題の研究

日野市・多摩市内の沖積低平地（氾濫原）には、多摩川・浅川を水源として中世・戦国期以来、灌漑植田水田が整備されており、1960年代半ばまで、「多摩・東京の米蔵」としてその存在を誇っていたが、都市化の進展に伴い激減し、現在では6.4ヘクタールしか残されていない。一方、水環境・都市農地保全に関し、農家以外の市民の問題意識が高まっている。

本研究は、水田の立地環境（所在地、水利、土質、傾斜度など）のハード面と、水田所有農家の水田経営意識、耕作維持意識および都市農政動向把握のソフト面から、現場の基礎情報を蓄積する、いわば「現代版簡易検地」の手法を確立することで、市民が残存水田に対し身近に接する機会を創出する。

これらの研究成果をとりまとめ、日常的学習啓蒙活動、学術報告、市民と残存水田所有者との交流などを行い、インタープリター活動を展開していく。

継続 学術研究 助成金受領者

井上 一雅 (いのうえ かずまさ)

首都大学東京大学院人間健康科学研究科 准教授

研究課題

多摩川水域における希土類元素の存在分布とその起源に関する研究－主としてMRI造影剤用のガドリニウム濃度との関連性について－

吉永 龍起 (よしなが たつき)

北里大学海洋生命科学部 准教授

研究課題

都市型河川における魚類の遺伝的多様性研究

小池 裕也 (こいけ ゆうや)

明治大学理工学部応用化学科 専任講師

研究課題

多摩川集水域50地点定期モニタリングによる放射性セシウム蓄積スポット調査

齊藤 玉緒 (さいとう たまお)

上智大学理工学部物質生命理工学科 教授

研究課題

多摩川の河川水、及び河川底の環境DNA解析による微生物叢解析－微生物を指標とした河川管理ガイドラインの提案の試み－

関本 征史 (せきもと まさし)

麻布大生命・環境科学部環境衛生学研究室 准教授

研究課題

多摩川の潜在的な希土類元素汚染と水生生物に対する生体影響の解析

宮間 純一 (みやま じゅんいち)

中央大学文学部人文社会学科 准教授

研究課題

多摩川流域所在アーカイブズの情報集約・公開に関する調査・研究－地域持続のために－

田中 恵 (たなか めぐみ)

東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 准教授

研究課題

多摩川上流部の里山林における菌類多様性評価－里山林は樹木共生性のこの種多様性の受け皿となりうるか－

継続 一般研究 助成金受領者

鈴木 浩克 (すずき ひろかつ)

井の頭 自然の会 代表

研究課題

ICレコーダーを利用した多摩川上流部及び東京都山間部における絶滅危惧鳥類と希少鳥類の生息調査

大嶽 貴恵 (おおたけ たかえ)

環境まちづくりNPO エコメッセ 理事長

研究課題

多摩川流域の地下水の文化、価値を継承する次世代教育のためにコミュニケーションを重視した「水を守る」「水を活かす」リーダーとなる人材育成

－研究助成成果報告書について－

これまでに助成した研究のうち、下記のものについて成果報告書をご提出いただきました。
なお、成果報告書は今後、財団公式ウェブサイトに順次掲載してまいります。

種別	成果報告書番号	研究者氏名 (敬称略)	所属・役職 (成果報告書提出時点)	課題名
学術研究	332	佐藤 大樹	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林昆虫研究領域長	多摩川上流域における落葉分解性水生不完全菌類の多様性とその落葉碎食水生昆虫に対する意義の解明
	333	彦坂 健児	千葉大学大学院医学研究院感染生体防御学 特任講師	多摩川河口域に飛来する野鳥の保護にむけた寄生虫感染状況の調査
	334	小作 明則	一般財団法人進化生物学研究所	多摩川中流域に残存する谷戸地形(都立農業高等学校附属神代農場)の生物多様性に関する研究と谷戸地を利用した環境教育
	335	真山 茂樹	東京学芸大学教育学部 教授	多摩川の河口干潟における珪藻の種多様性と群集ダイナミクスの解明
一般研究	235	井上 太志	自然観察活動チーム Wild Lives Watchers代表	多摩川中流域におけるカヤネズミ生息状況マップの作成と保全の提言
	236	西田 一也	東京農工大学 農学府・農学部 非常勤講師	生き物の生息に配慮して改修した農業水路の市民参加型モニタリング調査
	237	重昆 達也	東京コウモリ研究会 代表	「環境賞レッドデータブック2014」の絶滅危惧Ⅱ類モリアブラコウモリは多摩川流域にいつ、どこに棲んでいるのか？
	238	清宮 祥子	特定非営利活動法人R. I. La 理事長	リネン布を使用した多摩川全域にわたる定点観測地点における流水内の放射性核種の量の調査
	239	御手洗 望	多摩クマタカ生態調査チーム	多摩川流域(東京都域)における絶滅危惧種ハヤブサの生態に関する調査研究
	240	山道 省三	NPO法人多摩川センター 代表理事	多摩川の主に漁撈、漁具、漁法に関する古文献、写真等のデジタル化に関する調査

3 活動支援事業について

第10回「とうきゅう環境財団 社会貢献学術賞」を贈呈しました。

受賞者は、東京大学名誉教授 高橋裕氏です。

当財団は、多摩川およびその流域の環境改善を図ることを目的に1974年8月に設立され、1975年から毎年多摩川とその流域の環境浄化・保全のための調査・試験研究や活動に対し助成事業を続けております。

これに加え、2009年8月、財団設立35周年記念事業として、我が国の学術振興に資することを目的に「社会貢献学術賞」を制定し贈呈事業を開始いたしました。

この度は、公益社団法人土木学会様よりご推薦をいただきました、東京大学名誉教授・日仏工業技術会名誉会長、高橋裕氏が受賞されました。2018年11月27日(火)にセルリアンタワー東急ホテルにて「第10回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞贈呈式」を開催いたしました。

高橋氏は、カスリーン台風などにより、戦後わが国で生じた多くの洪水について現地調査と綿密なデータ解析を行い、明治以来の堤防による河川改修や開発に伴う流域の変貌によって洪水規模が増大したことを学術的に明らかにしました。これを基に、水害と社会との関係に着目し、これまでのような堤防などの構造物のみによる治水政策から転換し、流域とのかかわりにおいて治水政策を進めるべきことを著書「国土の変貌と水害」において提唱されました。この概念に基づいて1980年から河川流域において調節池や地下浸透施設などを配置して洪水の発生を抑える総合治水の施策が、開発によって水害が激化した都市域の17河川を皮切りに全国へと展開され、水害軽減に多大な効果をもたらしました。その理念は現在、「河川法」「水資源基本法」など、さまざまな法制度として活かされております。

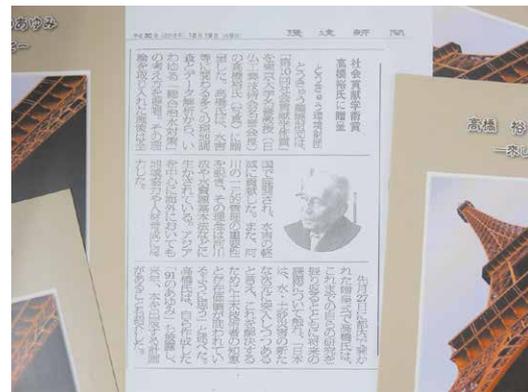
本賞は、日本の環境分野（環境保全、環境科学、環境技術など）において学術的、社会的に特に顕著な業績（調査、研究、環境科学技術の発展、行政施策への推進、実践活動など）を挙げた研究者を顕彰するものであり高橋裕氏の実績は、まさに本賞の趣旨に合致するものと考えております。

【贈呈式で使用しましたレジュメ等は財団公式ウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.tokyuenv.or.jp/>



贈呈式で講演をされる高橋裕氏



環境新聞にも掲載されました

4 啓発普及事業について

副読本「多摩川へいこう」を作成・配布しました。

副読本を作成し多摩川流域の小学校などへ無償配布しました。

ご希望の方は財団事務局までお問い合わせください。

お問合せ先 info@tokyuenv.or.jp



多摩川を下る!

ヘタレサイクリスト

その⑤

今回からお読みになる方へ

「中年域も半ばにやしかかった財田事務局員Zは、日頃の運動不足を痛感しつつも体育会系に走る勇気もなく日々逡巡していたところ、自宅に折り畳み自転車があることを思い出し、多摩川源流の村から河口までをひたすら下っていくという「ヘタレサイクリング」を発案。以後、この自転車(「銀星号」と命名)を担いで電車やバスに乗っては河畔の道を下り、疲れたら畳んで自宅に持ち帰る・・・を繰り返すこと早くも4回。気づけば源流の地ははるか背後に遠ざかり、多摩川はいつしか大河となって、洋々と眼前に流れているのであります。

・・・というわけで、前回の続き、京王多摩川駅からペダルを漕ぎ出すことにいたします。(前置きが長くて失礼!)

ヘタレサイクリストの軌跡



さて今回も意気揚々と電車に自転車を積んで出発したのですが、一天にわかにかき曇り、なんとも怪しげな空模様・・・。「花曇り」というやつですな。



しかし、今さら引き下がるわけにはまいりません。「まあ、生きていれば、こんな日もあるさ。」と自分に言い聞かせて、ペダルを漕ぎ出します。

再び京王多摩川駅近くの河原のグラウンドへ。今回は野球少年たちで賑わっていたのに、今日は閑散としております。これまで、ひたすら左岸を下っておりましたが、こちらでちょっと趣を変え、多摩川原橋を一気に渡って、右岸の川崎市側へと入ります。沿道には桜並木。曇っていても桜は桜。いいもんです。



この一帯は鳥獣保護区。赤い看板と高層マンションの取り合わせの妙が、なんとも多摩川。どこか懐かしい景色の中をしばらく進むと、京王線の鉄橋。轟音を立てて空を飛んでいく電車を横目に小休止。糸を水面に垂れている釣人たちの姿がちらほら。あ、中洲に子供が取り残されている! 驚いてよく見たら、カワウでした。

すぐそばには「休憩所」がありますが、実態は居酒屋。川風に吹かれながらの一杯は、格別でしょうなあ。残念ながら今日は休業中。こんど自転車抜きで寄ってみましょう。



さて、多摩川には、その両岸から、おびただしい数の支流が流れ込んでいます。ひとつひとつ異なるたたずまいを眺めながらペダルを進めるのも、また一興。ここは二ヶ領上河原堰。表面張力を感じるワンシーン。



その少し先に釣人たちの姿が見えます。中には流れの中に椅子を持ち込んでいる強者も。サイクリングロードのまわりは、刈り取られたばかりの草地。青芝の匂いが立ち込め、早くも夏の予感。



再び左岸の東京都へ。今日は暇そうな貸ボート店、なんだか幸せそうな樹々……。すぐ脇は住宅地なのに、こんなに自然が残されているのです。夕刻が迫り、犬を連れて散歩する人が多くなってきました。

やや行くと、松の「寄せ植え」が。反射的に時代劇を思い浮かべてしまいます。駕籠かきや飛脚もここを歩き交ったのでしょうか？ 目を閉じて、往時に思いを馳せてみます。



京王多摩川を発って6キロばかりで、登戸の街。ちょっと町なかに入ってみましょう。



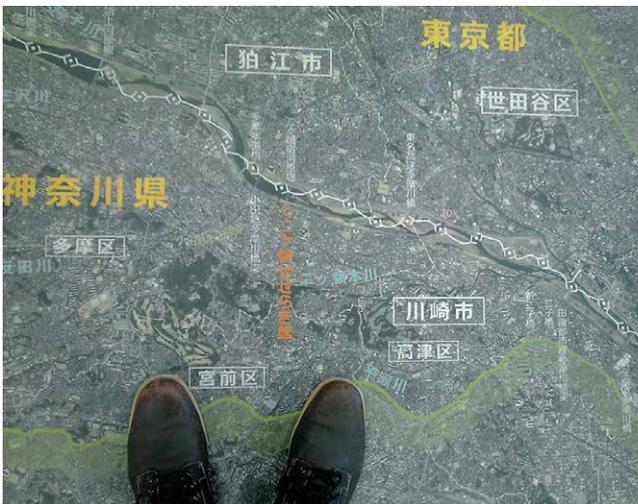
このあたりは、梨の産地として有名。世の歌にはリンゴの花ばかりが歌われていますが、梨の花もなかなか可憐です。



再び河原に戻ると、二ヶ領宿河原堰。すぐ下流は広々とした「浅瀬」。いやはや、多摩川の流は本当にさまざまな表情を見せてくれます。近くにある「二ヶ領せせらぎ館」にも立ち寄りました。床一面に、多摩川流域の空撮写真！ 今まで下ってきた道のりを、もう一度たどってみます。



ついに河口まで20キロを切りました！ 二子玉川の高層ビルが眼前に迫ってきます。ところが野川が合流するあたりから、堤防上のサイクリング道路が切れ、なし崩し的に街中に吸い込まれてしまいました……。風も冷たくなってきたので、今日はこのへんで幕引きとしましょう。なんだか回を重ねるごとに「ヘタレ度」が増している感じがしなくもありません。



次回は二子玉川駅から、さらに下流を目指します！

(取材 2018年4月)

読者コーナー



「多摩川を下る！」を毎回読ませていただいています。

多摩川の四季を感じながらのサイクリングは実に面白く、楽しそうです。読む側も楽しめます。行く先々の名所や名産品もかかれており、全方位の「ヘタレサイクリング」ですね。その4に聖蹟桜が丘近くの野鳥観察小屋でのバードウォッチングでは1羽も現れず残念でした。「・・・思わず、泣きたくなります」とのコメントがついていましたが、作者はどんな鳴き声をするのかな？。コメント隣の写真のジョウビタキの「ヒツヒツ クワックワツ」か！ ふざけた感想になりますが、読んでいて冗談が浮かんできます。

多摩川の自然を謳歌されるような「多摩川を下る！」を続けて下さい。

「多摩川を楽しんでいる読者」より

1月末、多摩川で開催された鎌田南睦会主催の「どんど焼き」を見に行きました。今年で30回目を迎える小正月としての行事です。松飾や正月飾りを持ち込む人が、多く家族で櫓の前で記念撮影をしたりとなんと賑やかなことでしょう。

鎌田南睦会の会長のご挨拶から始まり、仮神殿での静粛な礼拝が済むとお神酒が配られます。(お子様には、ジュースが配られていました。)消防団・消火隊の皆様からの注意事項のアナウンスがあり、櫓にホースで水が放水されて点火。乾燥も手伝い火の勢いは強くお焚き上げ開始。私は初めての参加でしたが凄い迫力にビックリ！お神酒を有難く頂戴しました。大切な伝統行事を支える町会、消防団、消火隊、地元企業の皆様の一体感を身近に感じる事が出来ました。子供たちの歓声もあがり、空には子供たちが揚げる凧が泳いでいました。多摩川河川敷というフィールドでの可能性を感じた素晴らしい「どんど焼き」体験でした。来年も楽しみにしています。(世田谷区住民 土方)



最後は「お餅焼き」無病息災祈願！

読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 とうきゅう環境財団 info 宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

info@tokyuenv.or.jp

事務局より

長かった冬もそろそろ終わり、春の息吹がかすかに感じられるようになりました。
これからの季節、河原も華やかに彩られていきます。
草花が多摩川の流りに育まれるように、財団も皆様のご支援を頂きながら
着実に活動を続けてまいりました。
この4月からは、新たなステージに入る予定です。
引き続きのご支援、よろしくお願いいたします。（Z）



2019年度の助成研究の応募申請が新規で51件ございました。募集告知にご協力を
頂いた関係先の皆様に御礼申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。
3月9日にアミガサ事件を題材としたなかはらミュージカル「GREIFEN」を
見に行きます。いまから楽しみにしております。Facebookでもお知らせしますね。
<https://www.facebook.com/tokyueuv/>（M）

当財団は「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」と合併し、
2019年4月1日から「東急財団」となります。

※監督官庁による認定が条件となります。

- 発行日 2019年3月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 とうきゅう環境財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14（渋谷地下鉄ビル5F）
TEL 03-3400-9142 FAX 03-3400-9141
公式ウェブサイト <http://www.tokyueuv.or.jp/>

2018年は多摩川改修から

100年

1918(大正7)年から
国家の一大プロジェクトとして
多摩川の改修方針を定め、
直轄事業として整備が
行われるようになりました。
今日に至るまで続けられてきた
多摩川の改修。
これからの100年も、安心・安全な
多摩川を目指していきます。

昔から好き、
これからも好き。



がた わま

改修百年



多摩川改修100年イメージキャラクター
百川 多摩 (ももかわ たま)
多摩川の近くに住んでいる明朗活発な女子高生。
小さい頃から多摩川で遊んでいて、今も堤防が通学路。
自然豊かな多摩川のが大好き。

国土交通省 京浜河川事務所